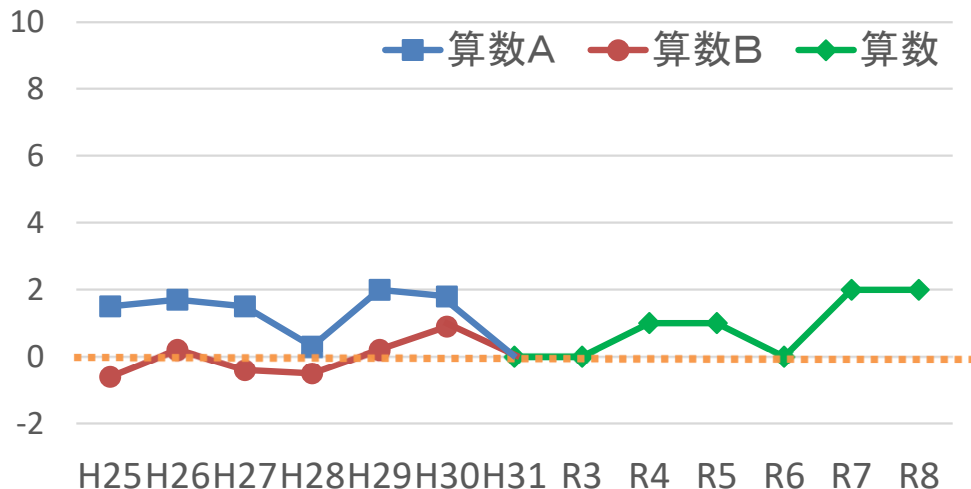


結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域		県	全国平均
A	数と計算	62.3	61.1
B	図形	56.5	55.3
C	測定	77.9	78.1
C	変化と関係	39.1	41.1
D	データの活用	50.6	48.6

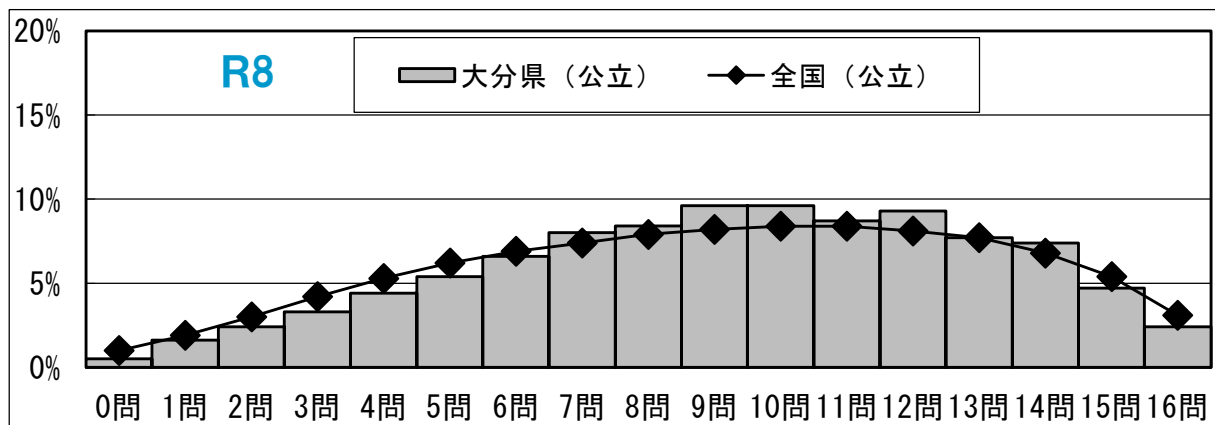
▲「測定」「変化と関係」の領域は全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	61.1	60.1
思考・判断・表現	48.3	45.4

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で、全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
○正答数が全国平均以上(9問以上)の児童の割合は全国値を上回る。

課題が見られた問題と指導の改善 正答率が低かった問題

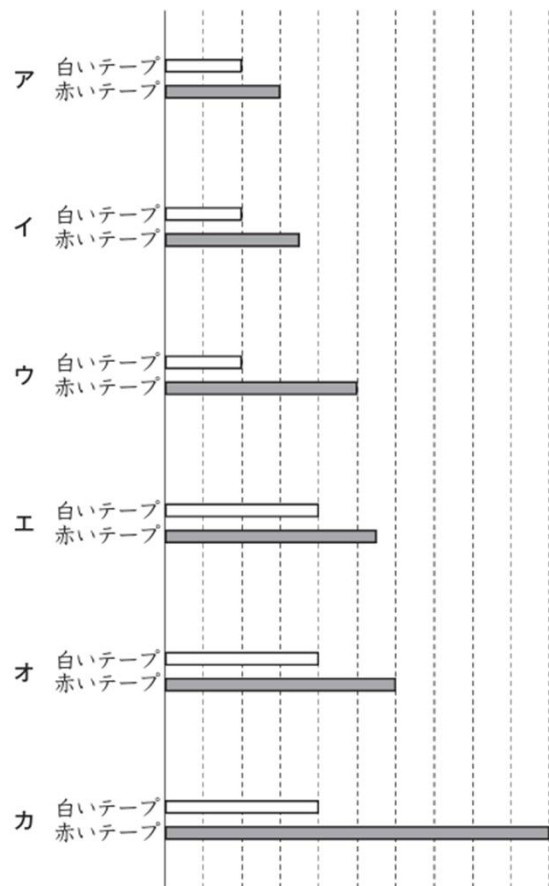
大問2(4)【平均正答率 大分県29.3% 全国34.5%】

基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題。

問題

赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれですか。

下のアからカまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



解答類型	
正答	ア・オ (29.3%)
誤答例	イ・エ (41.2%) ⇒基準量の1.5倍に当たる量を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられる。
	ウ・カ (10.4%) ⇒基準量の1.5倍に当たる量を基準量の1.5倍を合わせた量であると誤って捉えていると考えられる。

指導の改善

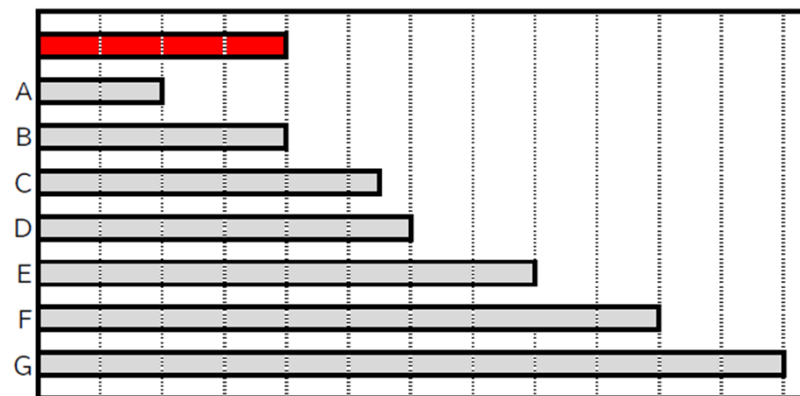
【児童のつまづきを確認】

- 基準量の1.5倍に当たる比較量を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えている。(差で考えている)
- 基準量の1.5倍に当たる比較量を、基準量と基準量の1.5倍を合わせた量であると誤って捉えている。

【学習指導のポイント】

示された基準量と割合から、比較量を捉えることができるようにすることが重要である。

○学習指導に当たっては、例えば、下のように、示された基準量(1番上の赤いテープ)に対して、様々な比較量がどれだけに当たるかを、図を通して考える活動が考えられる。



①まず、基準量とその2倍や3倍に当たる量(割合が整数で表される簡単な場合)を比較することを通して、基準量の1倍や1.5倍、2.5倍の意味を理解できるようにする。

※割合が整数で表される簡単な場合について、「2倍」と「2目盛り分多い」が違う意味であることを捉える活動を通して、倍の意味を理解できるようにすることが大切である。

※第2学年の「倍の意味」の考え方を統合・発展させる。(既習事項との関連を意識させる)

②次に、基準量の大きさを変えて同様の活動を行い、例えば基準量の1.5倍に当たる量は、基準量を1と見たときに1.5に当たる量であることを捉え、割合についての理解を深めることができるようにする。